



株主のみなさまへ

第94期第2四半期 株主通信

2019年4月1日～2019年9月30日

Contents

トップメッセージ	1
連結決算ハイライト	2
連結財務データ	3
トピックス	5
会社情報・株式情報・CSR	6
Takasago's History	裏表紙



代表取締役社長 梶村 聡

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2020年3月期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

本年度前半のわが国経済は、輸出と生産に海外経済減速の影響が見られるものの、堅調な企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな拡大基調で推移いたしました。一方、世界経済は、総じて見れば緩やかな成長が続いているものの、米国の保護主義政策に起因する通商問題や英国のEU離脱問題、中国経済の減速など、依然として先行きが不透明な状況となっております。

香料業界においては、競合他社との競争環境は一段と厳しさを増しておりますが、市場としては、中国や東南アジアでの成長が引き続き期待できる一方、成熟市場である欧米でも底堅い成長が見込まれます。

このような状況の中、当第2四半期の連結売上高は、777億円(前年同四半期比1.1%増)、営業利益は16億円

(前年同四半期比61.9%減)、経常利益は14億円(前年同四半期比71.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億円(前年同四半期比60.8%減)となりました。

経営方針

当社グループは、「地球環境に配慮し、地域社会を大切にしたい、世界の人々から共感を得られる企業を目指す」、「信頼される商品を生産し続けることにより、グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す」の経営基本方針の下、飛躍的な成長を目指し、当社グループの有する全ての力を結集し、グループ一丸となって中期経営計画『TAKASAGO GLOBAL PLAN(One-T)』(2018-2020年度)に取り組んでおります。

なお、中間配当金につきましては、株主のみなさまの日頃からのご支援にお応えするため、長期安定配当の方針を継続し、1株あたり25円の配当とさせていただきます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

企業理念

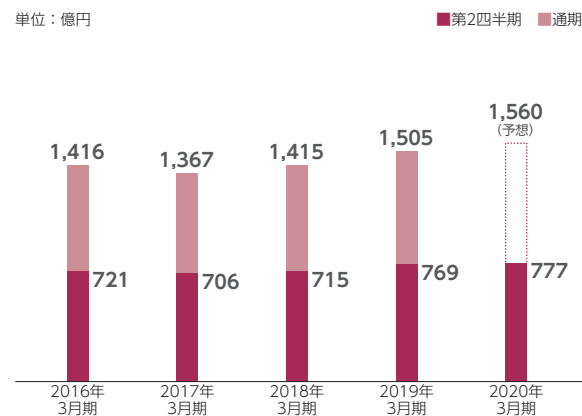
技術立脚の精神に則り
社会に貢献する

経営 基本方針

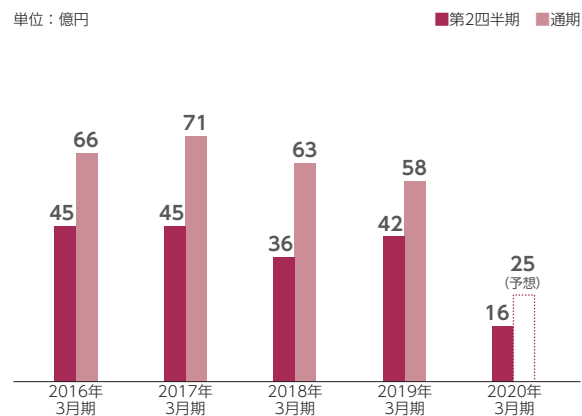
地球環境に配慮し、地域社会を大切にしたい、
世界の人々から共感を得られる企業を目指す
信頼される商品を生産し続けることにより、
グローバル市場でのトップクラスの香料会社を目指す

連結決算ハイライト | CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |

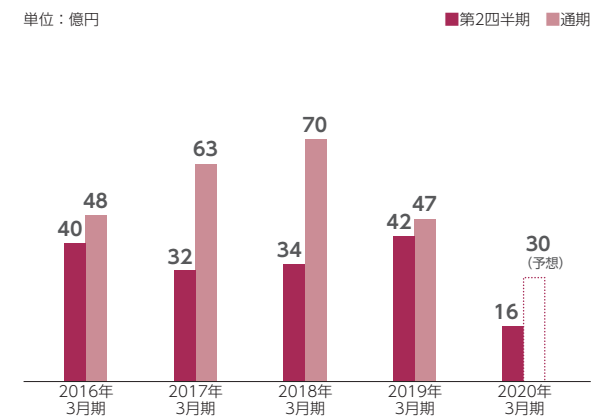
売上高



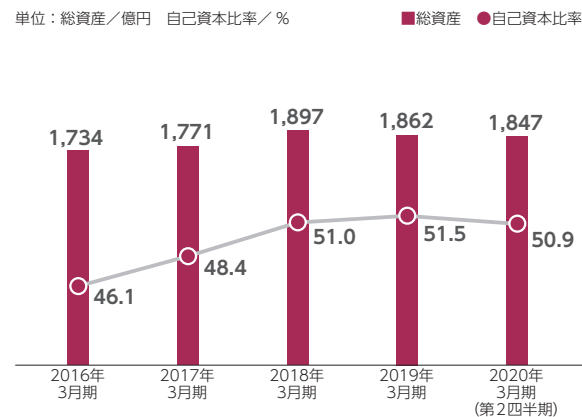
営業利益



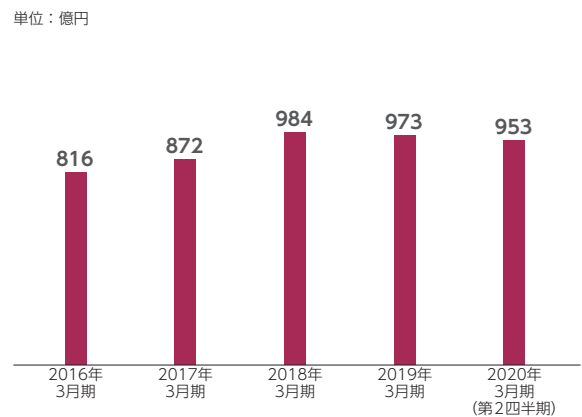
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益



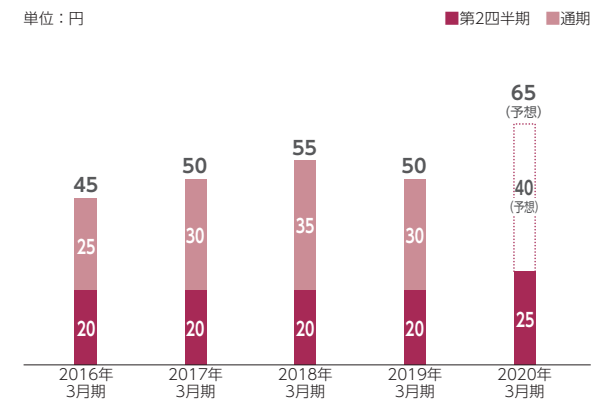
総資産／自己資本比率



純資産



1株当たり配当金



(注) 配当金額は2015年10月1日実施の株式併合後の水準を基に算出しております。

詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。
<https://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料 IR

検索

経営成績

単位：億円

科 目	2016年3月期 (第90期／第2四半期)	2017年3月期 (第91期／第2四半期)	2018年3月期 (第92期／第2四半期)	2019年3月期 (第93期／第2四半期)	2020年3月期 (第94期／第2四半期)
売 上 高	721	706	715	769	777
売 上 原 価	485	475	485	527	559
売 上 総 利 益	236	231	229	241	217
販売費及び一般管理費	190	186	192	199	201
営 業 利 益	45	45	36	42	16
経 常 利 益	46	39	42	52	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	40	32	34	42	16

Point 売上高 フレーバー事業、フレグランス事業の売上が増加し、対前期比8億円増の777億円となりました。

Point 営業利益 原料価格の上昇等により営業利益率が低下し、対前期比26億円減の16億円となりました。

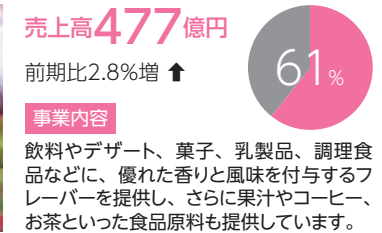
財政状態

単位：億円

科 目	2016年3月期 (第90期)	2017年3月期 (第91期)	2018年3月期 (第92期)	2019年3月期 (第93期)	2020年3月期 (第94期／第2四半期)
流 動 資 産	868	880	918	943	938
固 定 資 産	865	891	979	918	908
流 動 負 債	508	480	527	529	549
固 定 負 債	409	418	386	358	344
純 資 産	816	872	984	973	953
(うち株主資本)	(685)	(736)	(796)	(834)	(840)
総 資 産	1,734	1,771	1,897	1,862	1,847

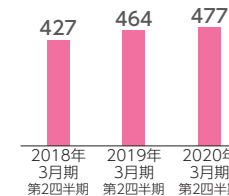
事業別概況

フレーバー事業



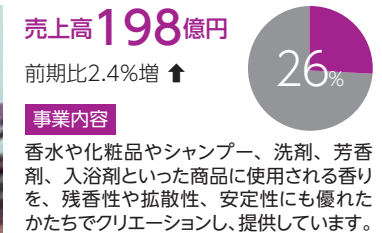
売上高

単位：億円



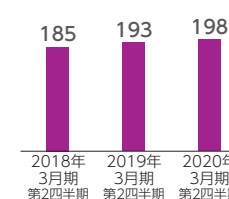
● シンガポール子会社において飲料向け等が好調に推移したことにより、増収となりました。

フレグランス事業



売上高

単位：億円



● 米国子会社において芳香剤向け等が好調に推移したことにより、増収となりました。

アロマイングリディエーツ事業

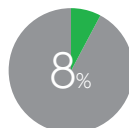


売上高 **64** 億円

前期比5.8%減 ↓

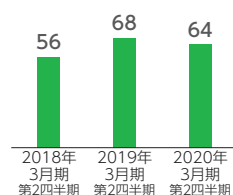
事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエイションに用いています。



売上高

単位：億円



● 在庫調整等の影響により、主力品メントールが低調に推移し、減収となりました。

ファインケミカル事業

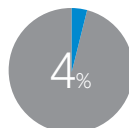


売上高 **29** 億円

前期比15.0%減 ↓

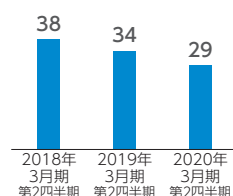
事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、フロー連続技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。



売上高

単位：億円



● 医薬品中間体において一部得意先の在庫調整が続いたこと等により、減収となりました。

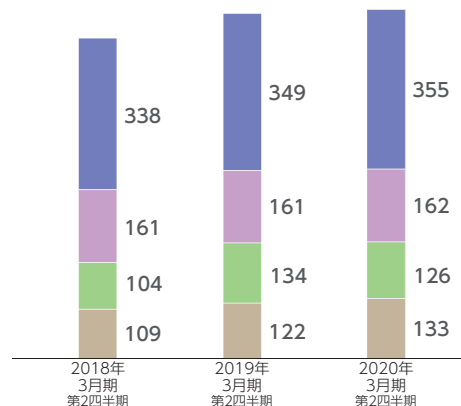
※上記の他に、その他不動産事業の売上高7億円がございます。

地域別概況

地域別売上高

単位：億円

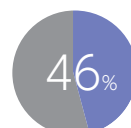
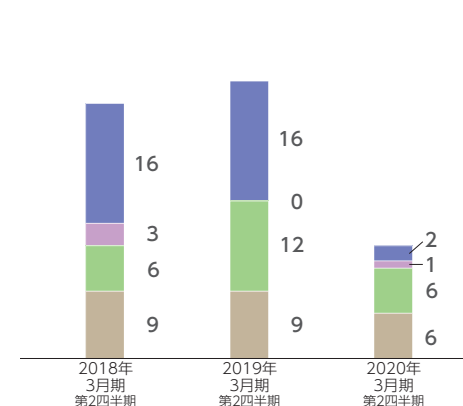
■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



地域別営業利益

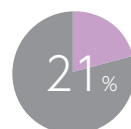
単位：億円

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



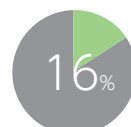
日本

国内子会社が堅調に推移したことにより増収となりましたが、原料高騰の影響等により減益となりました。



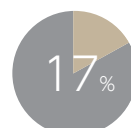
米州

売上高は前期並みとなりました。利益面では米国子会社が堅調に推移したことにより増益となりました。



欧州

フランス子会社が低調に推移し減収となりました。利益面ではドイツ子会社の事業基盤強化に伴うコスト増等により、減益となりました。



アジア

シンガポール子会社等においてフレーバー部門が好調に推移し増収となりました。利益面ではフレグランス部門における原料高騰により、減益となりました。

アメリカ現地法人 50周年を迎える

アメリカの現地法人Takasago International Corp. (U.S.A.)は2018年4月に創立50周年を迎え、2019年7月に50周年祝賀会を開催いたしました。同社は主にフレーバー、フレグランスの製造・販売を行っています。

1968年4月にニューヨークで設立された同社は、ニュージャージー州のフレーバー工場、ニューヨーク州のフレグランス工場など各所に拠点を構えています。現在では高砂香料工業グループの海外拠点の中で最大規模を誇る拠点到に成長しました。

今後もメキシコやブラジルの拠点を含めた米州地域の中核拠点として、グループ事業の成長・発展に貢献してまいります。



Takasago International Corp. (U.S.A.)

フロリダ グレープフルーツ 植樹プロジェクトに参画

当社は、米国フロリダでの果実栽培に直接的な出資を行うことを決定し、グレープフルーツの継続的な植樹に関して、柑橘加工会社Peace River Citrus Products社及び、農園及び選果場経営者The Scotts Family Companies と長期的合意に至りました。

グレープフルーツ精油は重要な香料原料の一つです。しかしグレープフルーツの主産地であるフロリダ州では近年、ハリケーンによる被害や柑橘グリーンング病等の影響を受け、減産傾向にあります。当社は本プロジェクトを長期安定調達に向けた対策の一つに位置づけ、香料原料の持続可能な供給を確保すると同時に、生産者及び地域社会の支援を目指してまいります。



The Scotts Family Companiesのグレープフルーツ農園

—— 高砂コレクション・ギャラリーにぜひお越しください ——

TAKASAGO COLLECTION®

当社が収集してきました香りに関するコレクションは、日本の香道具、香炉、古代オリエントの香油瓶から18～20世紀の香水瓶まで約1,000点に及び、多彩で充実したコレクションとなっています。これらは本社ギャラリーでご覧いただけます。

- 場所 高砂香料工業・本社17階ロビー内
- 開室 10:00～17:00（入室は16:30まで）
- 休館 土日祝日、年末年始、臨時休館日
- 料金 無料
- 交通 JR蒲田駅東口・徒歩3分

赤色ガラス金彩草花文香水瓶

19世紀 ポヘミア

ボヘミアと呼ばれる地域は現在のチェコ中西部に相当する。この地域で透明度が高く、硬い良質のガラスが誕生した。19世紀には、このガラスに緻密なグラヴィール彫刻を施し、華やかな色彩で彩った美しいボヘミアンガラスの香水瓶が作られ、ヨーロッパで人気を博した。

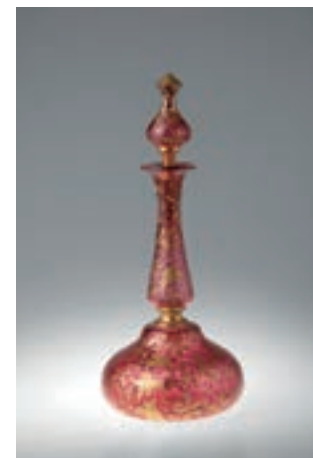


写真 高砂コレクション®

会社概要

会 社 名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本 社	〒144-8721 東京都大田区蒲田 5 丁目 37 番 1 号 ニッセイアロマスクエア 17F
T E L	03-5744-0511
国内事業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 平塚研究所、平塚工場、磐田工場、鹿島工場、 三原工場
海外事業所	世界27の国と地域に事業拠点がございませ
創 業	1920年(大正9年)2月9日
資 本 金	92億4,853万8,972円

取締役および監査役

代表取締役社長	梶 村 聡
取締役	野 依 良 治
取締役	笠 松 弘 典
取締役	藤 原 久 也
取締役	山 形 達 哉
取締役	染 川 中 一 弘
取締役	谷 中 史 弘
取締役	水 野 浩 明
取締役	磯 野 直 樹
取締役	川 端 裕 一 樹
常 勤 監 査 役	大 西 清 一
常 勤 監 査 役	近 藤 仁 康

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。
2. 監査役大西一清氏、中江康男氏は社外監査役であります。

執行役員

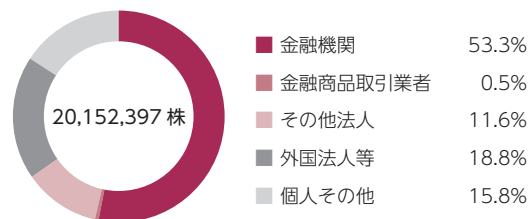
社長執行役員	梶 村 聡
常務執行役員	笠 松 弘 典
常務執行役員	藤 原 久 也
常務執行役員	山 形 達 哉
常務執行役員	染 川 中 一 弘
常務執行役員	谷 中 史 弘
常務執行役員	水 野 浩 明
常務執行役員	磯 野 直 樹
常務執行役員	川 端 裕 一 樹
執行役員	隈 元 浩 康
執行役員	木 林 孝 之 則
執行役員	佐 藤 文 彦
執行役員	川 野 明 彦

株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000 株
発行済株式の総数	20,152,397 株
株 主 数	4,839 名

株式の分布状況

所有者別構成比



(注) 個人その他には、自己株式としての保有分(2.7%)が含まれております。

大株主

株 主 名	所有株式数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,627	13.4%
日本生命保険相互会社	1,468	7.5%
株式会社三菱 UFJ 銀行	947	4.8%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	786	4.0%
共栄火災海上保険株式会社	780	4.0%
中江産業株式会社	720	3.7%
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	680	3.5%
株式会社みずほ銀行	486	2.5%
株式会社紀陽銀行	471	2.4%
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA GENEVA, CLIENT ACCOUNT	440	2.2%

(注) 1. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数(547,746 株)を控除して計算してあります。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数には信託業務に係る株式数が含まれております。

株主メモ

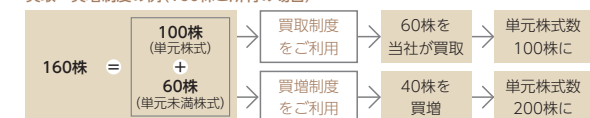
事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基 準 日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	同
(同 連 絡 先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所第1部(化学)
証 券 コード	4914
単 元 株 式 数	100株
公 告 の 方 法	電子公告により行う
公 告 掲 載 URL	https://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関するお手続きについて

● 単元未満株式(100 株未満の株式)買取・買増制度について

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な(サステナブル)社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。

高砂香料工業株式会社
『社会・環境報告書 2018』



URL https://www.takasago.com/ja/aboutus/sustainability/ehs/pdf/takasago_J_2018.pdf

Takasago's History

最終回

世界と共生する真のグローバル化 ● 2000⇒2020

テロや災害に世界が大きく揺れたこの20年、高砂香料では、環境や安全への意識の高まりの中、有機的で統括的なグループ運営で、事業のグローバル化を推進した。

高砂香料にとつての21世紀は、平成13年の当社社外取締役野依良治のノーベル化学賞受賞という嬉しい出来事から始まりました。

しかし、その後の約20年間、世界はテロや災害によって大きな影響を受けて来ました。そして、2000年代に食の安全への懸念が強まり、品質保証や法規制遵守に対する社会の意識も高まりました。

また、企業の社会的責任や、持続可能な社会実現のための取り組みが重視されるようになり、高砂香料では、これらの問題にグループとしてグローバルで取り組む枠組みを作りあげて来ました。平成15年から環境報告書を刊行し、平成18年にEHS宣言を出すなどして、会社としての姿勢とその成果を公表しています。

さらに、平成25年の平塚工場火災を教訓として、安全を最優先とする企業風土を醸成すべく安全の日を制定して、安全への意識を徹底させ、安全対策を進めました。

一方、BCP体制を強化するため、平成27年に広島県三原市に西日本工場を竣工させ、中国の製造二拠点間での相互補完を進めるなどの措置を講じて来ました。

品質保証に関しても、2000年前後に各拠点でISOを取得するなどして進めて来た品質保証マネージメントシステムを、グローバルで統括一元管理する体制作りを平成22年頃から始めました。

こうした、いわば「足場固め」に加え、21世紀に入ってから特にフレーバー市場で顕著になった天然志向に因るため、柑橘系原料の確保と新規開発のため、フロリダにシトラスセンタリーを開設(平成20年)し、また、天然バニラ資源の確保と活用を目指して高砂マダガスカルを設立(平成25年)するなどしてきました。バイオペロセスによる天然香料素材の開発に高い技術を持つ米CIIT社を買収(平成28年)したのも、そうした動きの一環です。

なお、この20年間で特筆すべきは、アジア市場での売上増大と、欧州におけるフレーバー事業の躍進です。

アジアについては、平成18年からの中期経営プログラムG3でアジア強化が謳われていたこともあり、積極的な展開が見られました。

東南アジア地域の拠点であるTIS(高砂シンガポール)は、平成26年に、それまでの2倍の広さと3倍の生産能力を持つ新社屋・新工場を竣工させています。

また、インドに懸案であった新工場が平成29年から稼働し始め、市場成長率の高いインドネシアでは、平成27年に設置した現地法人が、令和元年11月より製造を開始しました。

中国に目を向けると、平成18年に中国第二の製造拠点として設けたTIG(高砂広州)がフレーバーの製造を開始し、平成19年にSTU(高砂上海)の本部・研究所のリノベーションを行いました。TIGでは平成21年に第二期工事も竣工しています。

一方、欧州のフレーバー事業は、TEG(高砂ヨーロッパ)が牽引して、売上および営業利益のめざましい増大が見られました。環境問題への意識が高く、天然志向も強いヨーロッパ市場で、こうしてフレーバーが伸びた背景には、フレーバリストの活躍はもちろんですが、バニラをはじめとする天然資源の確保や、品質保証体制、環境対策、安全管理といった、高砂香料グループ全体のグローバル体制があったと言えるのではないのでしょうか。



平成27年に竣工した西日本工場